

日本視覚障害者柔道連盟中期計画⇒連盟ビジョンとミッションに基づいた今後中長期の活動方向

連盟ビジョン	視覚障害者柔道に対する多くの方々への理解を一層深めるとともに、障がい者スポーツが今以上に広がっていき、それに関わる全ての人々を取り巻く環境をより向上させ、誰もが住みやすい社会づくりに繋げていくこと。
連盟ミッション (定款第3条目的)	視覚障害者に対して、柔道の普及発展を促進する事業を行い、視覚障害者の社会参加と自立を図り、もって視覚障害者の人間形成に資すること。
特定非営利活動の種類 (定款第4条)	この法人は、前条の目的を達成するために、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。 (1)保健、医療または福祉の増進を図る活動 (2)社会教育の推進を図る活動 (3)学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 (4)前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は支援の活動
事業の種類 (定款第5条)	この法人は、第3条の目的を達するために、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。 (1)視覚障害者のスポーツに関する事業 (2)視覚障害者の理解・啓発事業 (3)視覚障害者問題の調査・研究事業 (4)情報提供事業 (5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業



日本視覚障害者柔道連盟中期計画『ビジョン2030』

(2021年11月27日(土) 2021年度第2回総会で承認)

【強化事業】

- 1 **2024年パリパラリンピック大会に代表派遣⇒目標は6階級(2028年ロスパラリンピック大会には8階級に派遣)**
 - 課題1 2023年世界ランキングで10階級で20位以内に
 - 施策 1 各年度男女それぞれ最低2回のIBSA公認国際大会へ派遣
⇒派遣費用80万円/1名から15名(選手10、スタッフ5)として120万円/1回。2回として240万円
 - 施策 2 日本でIBSA公認国際大会開催⇒現在の東京国際視覚障害者柔道選手権をアジアオセアニア選手権大会へ
⇒2020年度の世界ランキングでは男子7階級全て20位以内⇒競争の少ないアジアオセアニア選手権大会のおかげ
⇒2023年までに東京国際大会をIBSA公認に
 - 施策 3 階級を絞った派遣実施⇒資金懸念の軽減⇒安定的財政の必要⇒新規協賛スポンサー獲得
⇒派遣条件の厳格化
映像分析の精緻化推進
 - 課題2 世代交代の秩序ある推進
 - 施策 1 強化指定選手の多様化
⇒他競技からのスカウト活動活発化
 - 施策 2 連盟発掘事業の強化
⇒地方組織充実による埋もれている人材発掘
- 2 **真の強化に結び付く強化体制の構築⇒目標は派遣した国際大会でのメダル獲得率50%以上(参加選手の半数以上がメダリスト)**
 - 課題1 選手の実力測定の数値化推進
 - 施策 1 対象選手の区分化
 - ①強化・育成の明確化
 - ②全国を5ブロックに分けた地域性による育成推進 ⇒連盟理事も5ブロックに分けて設置
 - 課題2 NFと所属先との情報共有と一貫した強化制度
 - 施策 1 所属先コーチ(PC)との連携強化
 - ①練習メニューの共有化
 - ②情報(映像含む)交換の緊密化
 - ③PCの強化合宿帯同
 - 課題3 海外選手に負けない体幹作り強化
 - 施策 1 海外合同合宿実施
 - ①海外チーム受入(合宿地のサポート:新潟、青森、福島等)

【普及振興事業】

- 1 **全国盲学校、視覚特別支援学校での一層の柔道活動実施 目標: 2030年までに全国盲学校視覚特別支援学校の75%(48校)で柔道授業または部活が行われている**
 - 課題1 学校で指導する教師の不足
 - 施策 1 視覚障害者柔道指導者講習会の充実
 - 施策 2 連盟による学校フォローアップ体制確立(コーチ、選手による出前授業等)
 - 施策 3 講習ビデオ作製によるオンラインでの指導体制確立
 - 課題2 柔道競技への傷害リスク不安軽減
 - 施策 1 柔道による受身習得の効用周知徹底 ⇒全国盲学校体育連盟との連携
 - 施策 2 連盟HPに学校教職員・生徒用のページ作成
- 2 **競技人口増加による底辺拡充 目標: 連盟主催大会の参加者数の増加(目標はいずれも2024年度大会までに)**
 - 課題 対象選手の育成と掘起し
 - ①全日本視覚障害者柔道大会の参加者が60名を超える
 - 施策 1 地域での練習拠点の相談 ⇒連盟HPにて地域柔道道場主への協力呼びかけ(全柔連、講道館連携)
 - 施策 2 HPでの動画による大会参加者募集ページの充実
 - 施策 3 昇段試験へのサポート ⇒黒帯キャンペーン
 - ②全国視覚障害者学生柔道大会参加者が30名を超える
 - 施策 1 盲学校既存柔道部へのアプローチ ⇒連盟コーチの練習サポート
 - 施策 2 大会付添者への経済的支援 ⇒一人で来る不安解消
 - ③全国白帯キッズ柔道大会参加者が50名を超える
 - 施策 1 大会付添者への経済的支援 ⇒一人で来る不安解消
 - 施策 2 盲学校への普及振興策実施継続
 - 施策 3 冠スポンサー獲得
- 3 **視覚障害者柔道への社会認知度向上 目標: 視覚障害者柔道連盟および選手に関するニュースメディア掲載回数年間30件**
 - 課題1 東京パラリンピック大会以降の社会の興味低下
 - 施策 1 年間イベント回数が10回以上継続
 - 施策 2 全日本大会のTV中継実施⇒HPでの大会ハイライト動画や選手インタビュー配信 ⇒メルマガ登録者1,000人目標
 - 施策 3 地方自治体視覚障害者担当窓口との連携強化
 - 施策 4 代表選手等による小学校、中学校訪問による特別授業実施

◎統括的重要課題

⇒上記2つの事業の計画実施にあたって共通する速やかに実施されるべき最重要課題と施策

1. 事業実施にあたっての資金不安解消 ⇒ 新規スポンサーによる100万円獲得
2. 盲学校連携や新たな選手発掘 ⇒ 連盟組織改革による地域担当理事制導入による地方組織活性化
3. 選択と集中のために公平な強化指定選手選考